

授業科目(ナンバリング)	映像文化論 (CA210)			担当教員	尾場 均 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
現代の映像メディアを中心とするメディア社会では、簡単に有名な映像作品を見ることができ、文化・芸術・技術に触れることができる。また情報化社会では最新の技術や最新の情報を家庭で見ることができるようになった。各種の映像の手段と表現法の歴史や文化、社会に影響力の高い報道などの映像メディアを理解し、映像文化への視野を広げることを目標とする							②
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	映像の撮影技法と映像の歴史や文化を理解することができる。				課題レポート 定期試験		5% 15%
情報収集、 分析力	映像作品に関心を持ち、自ら多くの分野の映像を選択して鑑賞できる				課題レポート 定期試験		5% 25%
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	最新の撮影技法に興味を持ち、その仕組みを理解することができる。映像や内容を通して伝えたいことを読み取り、正しく理解することができる				課題レポート 定期試験		5% 45%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>定期試験の成績を 85% とし筆記試験を行う。授業内容に係る課題レポートを提出する。 課題レポートの成績は、15% とする。 定期試験は、映像関連の専門用語の理解を前提に映像の歴史や映像の伝えたいこと、その撮影技術、鑑賞した作品の理解度を評価する。ポートフォリオによるレポートについては、講義内容に対して自分の考えを述べることであったかを評価しフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。</p>							
授業の概要							
<p>映画の誕生から世界の映画やCM、最新のインターネット配信技術、SFX映像を鑑賞して映像文化を理解する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：必要な教材等はポートフォリオ・Webにアクセスして入手すること。 指定図書：『映画で入門カルチュラル・スタディ』本橋 哲也(著) 大修館書店</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>テレビはドラマや歌謡番組だけでなくCMや報道番組に視点を向けること。世界全体に目を向け、映像をとりまく文化・芸術作品にできるだけ多く触れ、日頃から映像メディアの動向に関心を持ちながら受講して欲しい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	講義の目的	現代社会における映像メディアとは	予：ポートフォリオを確認すること
2	映画の歴史	19世紀ヨーロッパの映画の誕生から現在まで (サイレントの時代から現在まで)	予：サイレント映画とは何か調べておくこと
3	映像文化（日本）	日本映画の巨匠たちの作家論及び作品論を説く (黒澤明を中心に)	予：黒澤映画を事前に調べておくこと
4	映像文化（アジア諸国）	韓国ドラマやカンフー映画、タイ・インド作品を見て各国の映像文化を理解する	予：アジア各国の文化・歴史をすること
5	映像文化（世界）	芸術作品として位置づけ、世界中のCM映像を理解する	予：各国の文化を理解すること
6	映像文化（アメリカ）	ハリウッド映画黄金時代から現代のアメリカ映像文化を理解する	予：ハリウッド映画作品を予習すること
7	テレビの歴史	テレビの誕生から現在まで (白黒からハイビジョン・地上波デジタルなど)	予：テレビ機材や放送方式の復習をすること
8	テレビゲームの歴史	テレビゲームの誕生から現在まで	予：日本と海外のゲームを比較すること
9	アニメーションの歴史	アニメーションの誕生から現在まで (ディズニーから宮崎駿など)	予：好きなアニメーションタイトルを準備すること
10	CGの歴史	CGの誕生から現在まで (月世界旅行からファイナル・ファンタジーなど)	予：最新のCGを調べること
11	インターネット映像技術	インターネットによる動画・音声・文字配信	予：インターネット最新技術を予習すること
12	教育番組映像の歴史	教育番組映像を理解する（人形劇やクレイアニメ）	予：現在の教育番組を予習すること
13	映像の光と影	テレビジャーナリズム、広告映像、やらせ番組など	予：最近のやらせ番組の現状を調べておくこと
14	映像ビジネス	各産業の映像ビジネスを理解する(地域連携など)	予：身近な映像ビジネスを探すこと
15	最新映像技術	インターネット、携帯電話、携帯ゲーム機、地上デジタル放送、ハイビジョン	予：専門用語の復習をすること
16	定期試験	筆記試験	予：授業を振り返り、試験の準備をする。